

情報モラル

講師

松本 一則

今回学ぶこと

音楽を聴く、写真を撮る、映画をみる、友達と連絡を取り合う、現代ではそんな日常生活の活動を、インターネットやSNS等の発達により、スマホ1台で行うことができるようになりました。しかし、スマホが広く普及している中で、使い方にも注意をする必要があります。

スマホに限らず、パソコンやインターネット利用の普及により、誰もが情報を発信することができ、どんな情報でも誰もが受け取ることが出来るようになりましたが、そこに落とし穴が存在することを忘れてはいけません。安易な情報発信から人を傷つけてしまうこともあります。また、自分が被害者になることもあります。場合によっては犯罪者になってしまうこともあるのです。

情報を正しく理解し、正しく活用できるように学んでいきましょう。

番組を見る前に知っておこう

インターネットトラブル、SNS、アプリケーション、メールマガジン、プログラム、コンピューターウイルス、炎上、バナー広告、ネット依存症

情報モラルを正しく理解する

インターネットの中にはさまざまな情報が存在しますが、私達はその情報のすべてを手に入れることができます。しかし、その情報が正しいのかどうかを考えることは少ないのではないのでしょうか。ネットの中にあるのだからすべて正しいと考えるのは危険で、他人をだましたり困らせることを目的とする情報も存在します。

情報を得る場合に必要なのは、その情報が信用できるのかを考えることです。発信者は誰か、情報は誰でも分かる内容か、いつ発信されたのか、どこから発信されたのかなどを、チェックする必要があります。そして信用できると判断したときだけ活用するようにするといいでしょう。

情報を発信する場合にも、嘘やでたらめはいけません。また、いじめになるような情報や相手が嫌がる情報を発信しては絶対にいけません。してはいけないことを判断できることが情報モラルです。

被害者や加害者にならないために

情報を安易に利用すると被害にあうことがあります。現在の技術なら、写真1枚から相手を特定したり、場所を推定することができてしまいます。そこからストーカー被害にあう、という事件が現実には起こっています。非公開にした情報が、友達から友達へと伝わっていき、いつの間にか公開されてしまうことも少なくありません。アプリをインストールしただけで個人情報が流出してしまい、詐欺の被害にあうこともあります。

情報を発信する場合でも注意は必要です。法律に違反する情報（コンピュータウイルスや個人情報など）を公開してしまうと、犯罪者になってしまいます。他人の嫌がる情報を書き込んでしまったために炎上してしまうこともあります。

大切なことは、情報を扱う場面では「この後に何が起こるか」を考えるということです。自分の情報が他人に渡ってしまったり、自分が加害者になってしまう可能性もあります。また、被害にあう可能性や、嫌な思いをさせてしまう可能性もあります。必ず考えてから情報を扱うようにしましょう。SNSで長時間話してしまう場合でも、それを相手が望んでいることなのかを考えないといけません。

トラブルの解消

それでもトラブルに巻き込まれることはあります。顔も知らない相手に会いに行っただけで行方不明になったり、高額な金銭を要求されたり、個人情報を知らせてしまって詐欺にあったりすることがあります。SNSを使っていると、不当な要求や違法な要求をされたりするケースもあります。

そんなトラブルにはあわないよう注意してほしいのですが、それでもトラブルに巻き込まれたら、迷わずに身近な人に相談することが大切です。見知らぬ他人ではなく、自分を知る身近な人（家族や友人など）が、一番自分を知ってくれているのです。学校の先生に相談するのもいいでしょう。

長時間のスマホ利用をやめたいなら、制限してくれるアプリをインストールするなどの対策も有効です。